

詩編 第119編 54節

「あなたのおきては、私の旅の家では、私の歌となりました。」

風かおる季節、野山に花が咲き、新緑が眩い頃ともなれば、人々は東西南北に旅を始める。それまで寒さで閉じ込められていた気持ちを一挙に解放するかのように動き出す。それに、数年来つづくコロナのための制約が少し緩和されたことも旅への熱となっているようである。期待と感染症への用心で始まる旅にはもう一つの負担がある。旅の費用である。大家族の移動となればかなりの費用となる。それでも、目的地にある楽しみや憩いを思うと旅は続く。

詩編の旅人は、別の旅がある。神のみことばに導かれる旅である。期待こそあれ、不安や費用のことは一切ない。あるのは、旅する家の憩い。恵みだ。それが旅の歌となる。それも私の家、私の歌となる。約束された地があるから、目的があるから、そして必ず成就する確かな望みのゆえに、旅する家が歌の宿となる。

この旅の費用は無い。あるのは、主なる神が語りかけるいのちのみことばである。旅を支え、導き、確かなものとするみことばである。この無償のみことばは、主なる神の愛のしるしであり、旅に伴ってくださる神ご自身のしるしである。それゆえ、旅人はあなた、と呼び歌う者とされる。

2023年4月22日